


1. 新型インフルエンザはどんな病気？



通常のインフルエンザと同様、感染した人の咳やくしゃみなどでウイルスが飛び散りそれを吸い込むことによって感染します。

ウイルスが付着したものをさわった手で、口や目、鼻の粘膜をさわることでも感染します。また、症状が出る前日から感染力をもつため、気づかないうちに感染を広げる危険性があります。

通常のインフルエンザと新型インフルエンザの違い

種類	通常のインフルエンザ	新型インフルエンザ
特徴	既に今まで流行しているものと類似しているため、多くの人はある程度の免疫をもち、大流行には至らないことが多い。	人類が感染したことのない新しいウイルスであるため、ヒトは免疫をもたず、重篤でより多くの感染者・死者が出る可能性がある。
症状	発熱、咳等の呼吸器症状、頭痛、咽頭痛、関節痛。 稀に肺炎等の合併症で死亡することがある。	通常とほぼ同様の症状か、より重症で合併症も重い。
潜伏期間	1～5日	通常よりやや長いと推測
社会的影響	人口の5～15%が感染し、そのうち0.03～0.17%が死亡。 健康な成人はハイリスク群にはならないが、乳幼児、高齢者、基礎疾患のある者は重症化しやすい。 	人口の25%が感染し、0.5～2%が死亡。 健康な成人にも重篤な合併症をおこす可能性がある。通常よりも、重篤な症状が出現し、社会機能の麻痺(学校、事業所の閉鎖や公共交通機関の停止など)、経済的損失をきたす。食品搬送などの基本的な生活にまで影響が及ぶ。

2. 発生した場合の大阪市の健康被害の予想は？

大阪市における健康被害の予測

◎流行全期間の健康被害

医療機関受診者数 27～51 万人
 入院者数 5,000～14,000 人
 死亡者数 1,600～ 3,600 人

◎流行ピーク時の1週間あたりの健康被害

入院者数 2,079人
 集中治療室利用者数 459人
 人工呼吸器利用者数 229人
 死亡者数 451人

※アメリカ疾病予防管理センター(CDC)で示された推計モデルを用いて予想状況をあてはめています。

全人口の25%が罹患し、流行が8週間続く仮定のもとで、1日あたりの入院患者数は流行発生から5週間目がピークと予想されています。このため、外出の自粛など、日常生活が制限される場合もあります。

流行状況によって、大阪市では市長を本部長とした「大阪市新型インフルエンザ対策本部」を設置して、「新型インフルエンザ対策行動計画」により市民の安全・安心に努める対策を進めます。

3. 発生に備えるためには？ 【3つのポイント】

(1) 正確な情報を入手しましょう ～慌てない情報にふりまわされないために～

テレビやラジオ、新聞を通じて国の発表する情報や、大阪市の市政だより・報道発表資料・ホームページなどから最新の正確な情報を入手しましょう。

- 大阪市HP http://www.city.osaka.lg.jp/shimin_top/category/716-1-16-7-0.html
- 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou.html>
- 国立感染症研究所 <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
- 厚生労働省検疫所(FORTH) <http://www.forth.go.jp/index.html>



(2) 生活に必要な物品を備蓄しましょう

流行すると多くの人が感染(発病)し、流行が8週間(2か月)ぐらい続くと予想されます。慌てないためにも、日頃から生活必需品や食品などの買い置きをするなど、備蓄することをお勧めします。これらの備蓄は地震や災害の時にも役立ちます。

～用意したい備蓄品リスト～

- 体温計
- 常備薬
- マスク(市販の不織布など)
- ビニール袋(使用済みのティッシュやマスク等を密閉して捨てる)
- アルコール消毒液(塩素系消毒薬なども効果あり)
- 冷却剤(氷枕など、頭や腋下の冷却用)
- 食品(米・麺類・缶詰・お菓子・インスタント食品・冷凍食品など)
- 飲料水・スポーツ飲料・缶ジュース
- ティッシュペーパー・トイレットペーパー
- 洗剤・石けん
- 使い捨て手袋
- その他、懐中電灯など災害時に使用できるものを準備



- ◎食品の備蓄については、食品の消費期限が近づいたら普段の食事やおやつに使って、新たに買い足すなどの工夫をお勧めします。
- ◎赤ちゃんがいる方は、紙おむつ・ミルク・市販の離乳食等、在宅療養をしている方は、必要物品などを準備してなるべく外出しなくても済むようにしましょう。

